

発災2週間後、石巻市内で活動しました。初めての救護活動であり、私の救護活動の原点でもあります。あの時、あの場所で「今やれることに精一杯取り組んでいた皆さんのお姿が印象的でした。その力強さに私が泣いて励まされていました。決して忘れません、ありがとう。

名古屋第一赤十字病院 久保敦史



二つのケア班として、門脇中学校の体育館を訪問しました。「長崎から来ました。」とお話をしたら「そんなに遠い所から来たの。長崎も台風で大変でしょう。」と逆に勞われたことを覚えています。皆様お元気になさっているでしょうか。長崎からお祈りします。

日赤長崎原爆病院 本山康志



あの時の光景を今も忘れていません。被災者の方に出来た事や残せた事があったか否かは今でも分かりませんが、赤十字の使命を感い精一杯活動させていただきました。私にとって縁も所縁も無い土地でしたが、またもう一度この目で「石巻の今をみたい」と思っています。

今津赤十字病院 岩本良平

当時、私は巡回診療に事務として同行しましたが、元気を与える役目の私が、皆さんからの温かいお言葉に、逆に元気づけられたのを今でも忘れません。震災から10年、石巻と福岡、距離は離れていても心はひとつです。

福岡赤十字病院 江崎信行

当時、現地の病院で自身も被災者であるにもかかわらず職務を全うしようとする方々を見て、とても勇気づけられました。我々が直接関わる事や時間は少ないですが、震災以来、毎年足を運んでいる同僚もおり、私たちの心には常に皆さんへの想いがあります。これからも共に。

相模原赤十字病院 M



石巻赤十字病院で診療活動を致しました。高知という離れた土地に住んでおり、直接的なお力添えは難しく忸怩たる思いです。一日でも早く皆様の「心身の復興」が叶えられます事をお祈り申しあげます。

高知赤十字病院 山崎浩史



昨年からの感染拡大で、大変な日々をお過ごしと思います。10年前の震災と重なる部分があり、思い出される事もあるのではないか。しかし私たちは、励まし合い、絆を築いてきました。今は寂しい時間も多いため、きっとまた笑って過ごせる時が来ると信じています。

きずな新聞 わっさー(塩竈)



石巻赤十字病院で患者さんに薬を確認し手渡しているとき、震災直後で最も混乱していた時期にも関わらず患者さんから「来てくれてありがとうございます」という声をかけていただきました。雪もチラチラ降る寒空の下、心だけは温かくなれた瞬間の声の響きは今も残っています。

広島赤十字・原爆病院 宅江良隼



救護活動経験のない自分が力になれるだろうか?と不安な気持ちで石巻に向かいました。到着と同時に、被害状況を見て、「自分にできることを。少しでも」と思い、無我夢中に動き、あっという間に時間が流れただよう感じました。皆さんが心身ともに健康でいらっしゃるよう祈っております。

日赤医療センター S



もう10年にならんですね。新型コロナのため、石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、また会いにいきますね。時間が経っても悲しいお気持ちちは変わらないと思いますが、少しでも元気出してもらえると嬉しいです。新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一／しゅん(東京都)

きずな新聞のお届けに石巻へ二度伺いました。早く玄関を開けて「少苦勞様」と笑ってくださったり、お茶っこに招いてお話を聞かせてくださった皆様のことを思い出す度に、早く会いに行きたい気持ちでいっぱいになります。またお会い出来る日を楽しみにしています。お身体に気をつけて。

きずな新聞 きむ(名古屋)



10年間、たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。直接お会いした方、紙面を通して会ってくださった方、すべての会いに感謝です。11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。あの日を生き抜き、そして今日まで生きててくれて、ありがとうございます。

きずな新聞 岩元暁子／あき(東京／石巻)

